

# 令和6年度 ワークセンター夢の樹就労移行支援 事業報告書

## 1 総括

令和6年度も基本的な活動方針に変わりなく、概ね安定した事業が行えたと感じている。年度内の就職者は5名で安定した就職実績が残せ、離職者は出ていない。利用者確保に関しては近隣市の就労支援センター等からの紹介で10名の新規利用者を確保することができた。新規利用者10名の内6名は他市在住であり、近隣市の就労支援センターからの紹介数が増加するなど関係構築が進んでいると感じる。令和6年度は報酬改定が行われたが、これまで通り就職者の定着率が重視される報酬体系に変更はなく、就職者の輩出と利用者確保の両立が安定した経営に欠かせない状況が続いている。

## 2 事業概要

- 1) 施設名 ワークセンター夢の樹
- 2) 事業種別 就労移行支援
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町2-1-3
- 4) 経営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 10名
- 6) 利用現員 10名 (令和7年3月31日時点)
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成20年 4月 1日
- 9) 職員  
管理者 1名  
サービス管理責任者 2名 (兼務: 常勤換算1.2)  
職業指導員 1名 (常勤換算0.7)  
生活支援員 1名 (常勤換算1.0)  
就労支援員 1名 (常勤換算0.8)

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現。  
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。  
安心と希望のもてる生活。

- 4 基本方針 個々に合った活動・実践的訓練  
情報、訓練方法等の共有  
計画的支援 (計画→実行→評価→計画の見直し→実行)  
訓練・相談・求職活動の一体的支援

## 5 実施事業 (活動内容)

### 1) 就労移行支援の流れと内容

#### (1) 支援の流れと方法

- ・利用前会議
- ・本人把握プログラム
- ・支援計画 (スケールマップ、個別支援計画、活動計画) の作成と定期的見直し

#### (2) 利用前会議

- ・基本情報の確認、共有。  
就労移行支援事業の利用開始前の段階で、利用者に関する基本情報について共有する為にケース会議を実施する。基本情報は就労支援センターを含め関係機関からの情報を得る。

- ・本人把握のためのプログラムおよび把握期間の決定。  
ケース会議では、本人の状況に応じた訓練プログラムと実施期間を決定する。

(3) 本人把握プログラム

- ・把握期間：1～3か月（利用者の状況による）。
- ・把握方法：通常のプログラム時の観察・評価
- ・把握期間終了時に、日常生活面、作業能力、社会性の項目で整理し、個別支援計画やスケールマップに反映させる。

(4) 支援計画（スケールマップ、個別支援計画）

- ・利用前実習でのアセスメントや事前に共有できた情報を基に、通所開始当初の個別支援計画とスケールマップを作成し、職員間で内容を検討する。その後週ごとに支援計画会議を実施し計画の評価、見直しを行う。

(5) その他のプログラム

- ・就労準備支援を意識した、各種プログラムの実施（随時）
- ・就労アセスメントの実施（随時）
- ・市役所や企業での実習、企業見学、トライアル雇用等の施設外支援

2) 作業種別

銀のさら はし・しょうゆセット作り  
釜寅 しゃもじセット作り  
受注作業（ダイレクトメール等）

3) 外部実習

市役所実習  
市役所販売  
多摩済生園清掃訓練  
企業実習

4) 企業見学

株式会社ベネッセビジネスメイト  
他

6 日 課

職員打ち合わせ、作業準備	8：30～	9：00
朝礼、体操、あいさつ練習	9：00～	9：15
清掃	9：15～	9：30
訓練プログラム（作業）	9：30～	12：00
休憩	12：00～	13：00
訓練プログラム	13：05～	14：30
休憩	14：30～	14：40
ストレッチ	14：30～	14：40
訓練プログラム	14：40～	16：20
清掃、日誌記入、終礼	16：20～	17：00
職員打ち合わせ	17：00～	17：30

## 7 重点課題・目標

### 1) 活動

#### (1) 個別支援の重視

##### ① 個々の状況に応じた計画的な支援

利用者個々の状況に応じた個別支援計画や就職までのスケールマップ作成を行う。利用者とは月1回以上面談を行い、本人の希望や訓練状況の変化に応じて計画を変更する。

##### ② 職業準備訓練の充実

###### ア、作業訓練

受注作業を通して、報連相などの基本的な労働習慣を習得する。

###### イ、訓練プログラムの充実

利用者が希望する職種に合わせ、提供する訓練プログラムの内容を職員ミーティングで検討し実施する。また、利用者に希望する訓練プログラムを確認し、新たに実施できるものがないか検討する。

###### ウ、面接訓練

通常面接練習に加え、必要に応じてオンライン面接の練習を行う。

###### エ、社会人として必要な社会性やビジネスマナーの習得

社会生活上必要と思われる知識や社会性、職場などで想定されるコミュニケーションなどを習得するため、ビジネスマナー講座やグループワークなどを実施する。

###### オ、利用者の心身の健康を保つ

必要に応じて面談等を実施し、困っていることや不安に感じていること、体調管理についてのアドバイスや対策を行う。また、訓練プログラムの一環でストレス解消の取組みも行う。

#### 【成果と課題】

月1回以上の面談などで、就職に向けての目標や課題、希望や不安などを確認し、必要に応じて計画を見直すとともに助言を行った。職業準備訓練では、利用者一人ひとりの希望や状況に合わせた訓練やグループワークを実施した。パソコンの基本操作などのスキルの向上や、社会性やコミュニケーションスキルなど社会人として必要な知識の習得が進んだと感じる。また、利用者のストレス解消の取り組みとして実施している塗り絵などは、利用者から気持ちが落ち着くなどの意見があり、息抜きやストレス解消とともに心情面の安定に役立っていると感じる。新たな訓練プログラムとして電子秤を使っての重さ計測を取り入れた。指示書に従ってネジや砂状の資材などを正しい重さに取り分ける内容であり、屋内型農園などの軽作業系の業務に役立つ訓練だと感じる。

利用者2名が当事業所の環境が合わずに退所した。退所後1名は自身で就職活動を行い就職が決定し、もう1名は別の就労移行支援事業所に通所した。また、1名の利用者は8月以降体調が優れず早退が続き、職業準備訓練や就職活動が計画通り行えない時期があったが11月以降は体調が回復し早退することはなくなった。別の1名は腰痛のため12月以降通所できない日が続き、医師の指示で1月上旬から4月上旬までの3か月間、自宅で療養することとなった。療養期間中は就労移行支援の支給を停止し、腰痛が回復後に再支給とする行政手続きを行った。前述の2名を除いた15名（就職者5名を含む）は体調面や心情面は概ね安定しており、順調に職業準備訓練が行えた。

#### (2) 丁寧なマッチングによる就職活動支援 - 目標就職者数4名

##### ① 利用者、企業双方に必要な情報を提供する。

利用者には求人者の仕事内容や通勤経路等の情報を伝え、企業には利用者プロフィールシートを提出し、利用者の特性や配慮事項等を伝える。

##### ② 職場実習などの施設外支援や職場見学などを行う。

入社を決める前に可能な限り職場見学や実習を行い、マッチングを確認する。

#### 【成果と課題】

5月、7月、12月、1月、2月にそれぞれ1名の計5名の利用者が就職した。また、トライアル雇用中だった2名がそれぞれ4月と7月に正式雇用となった。5月に就職した1名は入社前の実習を実施していない企業への就職だったが、小平市就労・生活支援センターほっと（以下「ほっと」）の

登録者が勤務していた企業であり、ほととの情報を基に本人、家族が判断し入社となった。7月に入社した1名は当事業所からの就職実績があり、事前情報を共有し業務体験の上入社となった。12月及び1月に就職した2名は業務体験を行った上で入社を決定した。2月に入社した1名は職場見学及び入社前に2週間の職場実習を行った上で入社となった。5名全員入社前に企業にプロフィールシートを提出し本人の特性や配慮事項を伝えた。3月末現在5名共に概ね安定して勤務を継続している。トライアル雇用から正式雇用になった2名とも企業からの評価が高く、正式雇用後も安定して勤務を継続している。その他、1名の利用者が就職活動中であり、令和7年度に就職を目指している。

### (3) 就労定着支援の充実

#### ① 本人支援

職場での対人関係や環境の把握に努め、企業が求める人物像や業務内容を本人に伝えるなど、職場適応支援を行う。

#### ② 企業支援

就職者の業務内容、対人関係、職場環境等に関する企業からの相談を受け、就職者の特性に応じた対応について助言を行う。

#### ③ 様々な状況や希望に対応した定着支援

職場や本人が希望する場合はメールやオンライン面談、本人の自宅訪問、来所面談などで状況を確認する。また、休業などで自宅待機となった就職者を受け入れ、体力低下や生活リズムの乱れを防ぐとともに、面談等により精神的な安定を図る。

#### 【成果と課題】

対象者9名の内8名については、概ね月1回の職場訪問を行い、本人また企業の状況や意向を確認した。他の1名は企業が定期的な訪問を希望しておらず、本人が月1回来所し面談を行うとともに企業とは電話やメールで本人の様子について情報共有を行った。9名全員が体調面、精神面共に概ね安定して勤務を継続しており、9名の内6名は当事業所と一体的に運営している就労定着支援の利用を開始した。他の3名も就労定着支援事業の利用を希望しており令和7年度に利用を開始する予定である。12月下旬より就労定着支援事業の利用者1名が休職となり、休職期間中の生活リズムや就労意欲の維持、心理面の安定を目的に当事業所に通所し復職を目指している。

### (4) 就労継続支援B型事業利用希望者のアセスメントの実施

軽作業、漢字テスト、計算問題等のプログラムを実施し、作業能力、持続力、集中力、またコミュニケーション能力などの社会性についての評価を実施する。

#### 【成果と課題】

就労継続支援B型事業利用希望者のアセスメントを5名実施した。軽作業や漢字テスト、計算問題などを実施し、作業能力や持続性、また報告、連絡、相談等のコミュニケーション能力の評価を行った。評価結果は5名全員が就労継続支援B型事業の利用が適当となった。

## 2) 人材育成

### (1) リーダー層の育成

### (2) 業務標準化

#### 【成果と課題】

- 1) 昨年度から引き続き職員1名に対して施設長から経理についての学習会を実施し、3月に終了した。
- 2) ミーティングで支援内容を共有している他、可能な限り2人体制での訪問や面談を行うことで、支援方法などについて意見交換が活発に行え、概ね統一した方針で支援にあたれていると感じる。

### 3) 経営管理

(1) 収支均衡の分岐点である1日平均利用者数8.5名以上、新規利用者数5名を目標とする。

- ① 近隣の関係機関リストをもとに、特別支援学校、就労支援センターなどへ利用者募集を行う。訪問を基本とするが、状況に応じてメール、オンライン面談を活用し、関係性の継続と強化を図る。過去の紹介実績を基に、効果の高い関係機関に重点を置くとともに新規の関係機関の開拓を行う。
- ② 法人機関紙およびホームページへのチラシ掲載などの広報活動を行う。
- ③ バウムの利用者状況を確認し、ステップアップ候補者の発掘に取り組む。
- ④ インターネットを活用した利用者確保の取り組みを実施する。

#### 【成果と課題】

令和6年度の新規利用者は10名で、3月末時点での1日平均利用者数は8.4人となり、昨年度を0.2人上回った(令和5年度実績8.2人)。令和5年度よりも利用実績は増加したが、報酬ランクが下がったことで給付費収入は前年度の2,449万円と比較し268万円減額し、2,181万円となったが黒字収支を維持することができた。

令和6年度は新規の関係機関への連絡は行わず、近隣市の就労支援センター10件、特別支援学校5校に訪問等で利用者紹介の依頼を行った。令和6年度は近隣市の就労支援センター等からの紹介で見学19名、実習15名を受け入れ、実習者の内7名が利用を開始した。またbaumからは1名が実習を行い、7年度の利用に向けて準備を進めている。

令和5年度から法人ホームページとは別に、インターネットの事業所紹介ページに当事業所の情報を掲載しており、6件の問い合わせがあったが利用には結びつかなかった。

(2) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

#### 【成果と課題】

適切に予算の補正を行い計画的に執行できた。

(3) 経費削減を徹底する。

- ① 未使用スペースの消灯等節電の徹底。
- ② 整理整頓により、備品、消耗品等の在庫管理を徹底する。
- ③ 印刷物については必要枚数の確認や、枚数の多いものについては試し刷りを行うなど無駄な印刷を行わないようにする。

#### 【成果と課題】

節電や消耗品の在庫管理、印刷前の確認などは概ね実施できており、無駄な支出は抑えられている。

### 8、その他の成果と課題

1) 利用者健康診断を7月に多摩小平保健所にて実施した。

### 9 事故等報告

1) なし。

### 10 開所状況

- |         |             |             |
|---------|-------------|-------------|
| 1) 開所期間 | 自 令和6年4月1日  | 至 令和7年3月31日 |
| 2) 開所日数 | (1) 週開所日数   | 5日間         |
|         | (2) 開所時間    | 午前9時～午後5時   |
|         | (3) 年間延開所日数 | 243日間       |
|         | (4) 平均活動時間  | 4.0時間       |

## 1.1 利用状況

- |                       |        |              |
|-----------------------|--------|--------------|
| 1) 利用者延人員             | 2,038人 | (前年度 1,999人) |
| 2) 1日平均利用人員           | 8.4人   | (前年度 8.2人)   |
| 3) 体験実習者延人員           | 71人    | (前年度 48人)    |
| 4) 1日平均実習人員           | 0.2人   | (前年度 0.3人)   |
| 5) 実習者実人員             | 15人    | (前年度 12人)    |
| 6) 企業内実習者延人員          | 118人   | (前年度 101人)   |
| 7) 就労継続支援B型アセスメント利用人員 | 5人     | (前年度10人)     |

## 1.2 利用者状況（令和7年3月31日現在）

### 1) 年齢

- |            |    |
|------------|----|
| 18歳以上20歳未満 | 0名 |
| 20歳以上30歳未満 | 5名 |
| 30歳以上40歳未満 | 3名 |
| 40歳以上50歳未満 | 2名 |
| 50歳以上60歳未満 | 0名 |

### 2) 障害の状況

- |               |    |
|---------------|----|
| 愛の手帳4度（東京都）   | 4名 |
| 精神障害者保健福祉手帳2級 | 2名 |
| 精神障害者保健福祉手帳3級 | 4名 |

### 3) 通所手段

- |        |    |
|--------|----|
| 交通機関利用 | 8名 |
| 徒歩等    | 2名 |

### 4) 居住状況

- |      |    |      |    |
|------|----|------|----|
| 管内居住 | 3名 | 管外居住 | 7名 |
|------|----|------|----|

### 5) 性別

- |    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| 男性 | 6名 | 女性 | 4名 |
|----|----|----|----|

## 1.3 利用者工賃

- |      |    |    |          |              |
|------|----|----|----------|--------------|
| 平均工賃 | 1人 | 月額 | : 3,334円 | (前年度 4,600円) |
|      |    | 日給 | : 217円   | (前年度 272円)   |

## 1.4 就労者の状況・バウムからの受入れ状況等

- 今年度就労者・・・5名（内トライアル雇用0名、離職者0名）  
今年度バウムからの受入れ・・・0名

## 1.5 環境の整備

職員、利用者が毎日、室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

## 1.6 防災計画

自衛消防訓練を年2回実施した。また、3月に当法人と小平手をつなぐ親の会との共催の防災訓練に参加した。